

平成 30 年 8 月 21 日

経済記者クラブ 各位

株式会社 富山第一銀行

## 格付据置のお知らせ

株式会社富山第一銀行(頭取 横田格)は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、以下のとおり格付を据え置く旨の通知を受けましたのでお知らせいたします。

1. 格付機関 : 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 : 『**A**』(シングルAフラット)
3. 格付の見通し: 『安定的』
4. 格付の対象 : 長期発行体格付
5. 格付の主な評価理由

- (1) 富山市に本店を置く資金量約 1.1 兆円の第二地方銀行。格付は、地元金融マーケットにおけるプレゼンス、健全性の高い貸出資産の質や資本の充実度の高さなどを反映している。コア業務純益(投信解約益を控除した実質ベース)は、貸出での競争激化や本店建替えにかかる経費の増加などを背景に減益が続いてきたが、足元では増益に転じている。有価証券にかかるリスクを適切にコントロールしつつ、増益基調を維持できるか注目していく。
- (2) 18/3 期の実質的なコア業務純益は 3 期ぶりの増益となった。貸出金利息の減収幅が縮小し、投資信託や外国債券からの利息収入が増加したことが主因である。貸出金利息においては、地元における資金需要が堅調ななか、審査体制の見直しによる融資判断の迅速化などを図り中小企業向けの残高増加につなげられたこと、とりわけ、比較的利回りの高いミドルリスク先との取引を積極的に推進できたことの寄与が大きい。一方で、地方公共団体向けなどの低採算融資を抑制できている。今後も中小企業向けの貸出残高を持続的に増強していくことが課題である。
- (3) 有価証券運用においては、円建債券の残高を削減し、株式や投資信託、為替リスクを取った外国債券の残高を積み増しており、実質的な利回りの改善を図っている。このため、資本対比でみた金利リスク量は抑制されている一方、エクイティ系資産や為替にかかる価格変動のリスク量は大きく、また、増加してきている。有価証券のリスクは含み益や資本の厚みに照らして管理可能な水準にあると JCR は考えているものの、リスクテイクの状況を引き続き注視していく。
- (4) 金融再生法開示債権比率は 18 年 3 月末で 1.21%と低い。近年、ミドルリスク先を中心にリスクテイクを強化していることを背景に、総与信に占めるその他要注意先債権の割合が上昇しつつある。しかし、大口の要注意以下先が少ないことや、要管理先や破綻懸念先に区分される与信先の一部に対しては DCF 法に基づく保守的な引当が行われていることなどから、与信費用は当面落ち着いて推移するとみている。
- (5) 連結コア資本比率は 18 年 3 月末 11.61%、貸倒引当金などを調整後でも 11%台と、資本の充実度は高い。ただし、連結コア資本比率の低下が続いており、今後のリスクアセットコントロールの状況を JCR はフォローしていく。

### 6. 格付の据え置きについて

今回の格付の据え置きは、当行の堅実経営と透明性が適正に評価されたものと考えております。当行では、この事に満足することなく、更に上位の格付の取得を目指し、引き続き地域金融機関として地域の皆様の多様なニーズにお応えできるよう堅実な経営に努力していきます。

本件に関するお問い合わせ先  
総合企画部 三鍋  
電話 076-424-1219